



本番へ向けて阿波踊りの練習に励む徳島大学の地医輝連一同大蔵本キャンパス

地域医療担う学生交流

14日 合同乱舞

徳大「地医輝連」と自治医大生

元気発信

11 阿波踊り

(栃木県下野市)の県出身学生とともに14日、徳島市の演舞場に踊り込む。へき地の医師不足が深刻な中、将来、徳島で地域医療に携わる者同士で交流を深める。

地医輝連は、2010年に徳大医学部の学生サークル・地域医療研究会の学生39人と顧問の谷憲治教授(54)ら教職員5人で結成した。連員の7割を占める県外出身者に阿波踊りを通じ徳島に親し

いというのが狙い。

自治医大から参加するのは、徳島出身の学生14人のうち12人。いずれも県から6年分の学費補助を受ける代わりに卒業後9年間は徳島の地域医療に携わることが義務づけられている学生。地医輝連が「学生時代から顔なじみになれば、いずれ徳島の地域医療に携わった際の連携にも役立つ」と声を掛けた。

地医輝連は3月から蜂須賀連の練習に参加するなど、本番に向けて準備

は着々。自治医大生は、12日に初めて合同練習で本格的な指導を受ける。両大の学生は14日、蜂須賀連とともに藍場浜、市役所前の両演舞場で合同の乱舞を披露する。

(大塚康代)